

## 5. ウマスゲ (カヤツリグサ科スゲ属)

*Carex idzuroei* Franch. et Savat.

2014年6月

日当たりのいい低湿地に生育する多年草で、本州（関東以西）、四国、九州、中国中部に分布します。太くて長い地下茎があり群生します。茎は高さ 40 cm から 60 cm で、和名は草姿が大型なところから、牧野富太郎が命名しました。花期は5月から6月で、花後にできる果胞は長さ 10mm と大きく、先端が長くくちばし状となり2裂します。兵庫県下の生育地は4か所記録されています（兵庫県産維管束植物 11）。生育地のひとつで加古川市内の休耕田に見られます。かつての加古川の氾濫原と思しきところで、ハンゲショウやミズタカモジ、サデクサなどの絶滅に瀕する植物とともに生育しています。本種は兵庫県版レッドデータブック 2010 の A ランク、近畿地方の保護上重要な植物レッドデータブック 2001 では B ランクに位置する希少植物で、他府県において絶滅危惧種に指定されているところも少なくありません。類似種としてはオニスゲ (*Carex dickinsii* Franch. et Savat.) やシオクグ (*Carex scabrifolia* Steud.) があります。オニスゲは山間部の湿地や谷池の集水湿地に生育し、ウマスゲより大きな果胞がつくので容易に判別できます。一方、シオクグは絶滅危惧種で塩生湿地に生育する多年草で、長い地下茎により群生します。



ウマスゲ (加古川市)



ウマスゲ群生状況 (加古川市)



オニスゲ (加東市)



シオクグ (加古川市)